

平成21年度 府立泉北高等学校 学校評価報告書

府立泉北高等学校
校長 猿田 茂

1 めざす学校像

- ① 文武両道をめざす高校（高い志をもって、他人を思う心を育み、幅広い教養を身に付けると共に、特別活動や部活動をとおして逞しい実行力、実践力を養う）
- ② キャリアガイダンスの充実した進学校（多様な進路に関する情報を提供することによって明確な進路目標をもたせ、その目標へ向けての学習活動によって進路希望の実現へと導く）
- ③ 国際文化科と総合科学科という特色ある学科を基本とし進化を続ける高校（専門学科の利点を生かし、時代の要請に応じた新しい取り組みを進めていく）

2 本年度の教育目標

- 泉北高校が目指す学校づくりを進めるため、具体的な行動目標として次の観点から取り組む。
- 国際・科学高校としてのスタートから5年目を迎え、多様な取り組みについて客観的評価を含めてその成果を把握、分析を行い、今後の改善方向を具体化し進める。
 - 個別に対応が必要な生徒への指導について、組織的な体制を整備する。
 - 学校の特色や活動について幅広く情報発信をすると共に、地域との連携を進め、「地域のセンター」としての機能を果たす
 - 「それは生徒のためになりますか」を全教職員の行動基準として共有する

3 本年度の取組計画及び自己評価

領域	具体的な取組計画 [平成21年5月 記入]	取組状況の自己評価	今後 進めたい取組み
(1) 学習指導等	<p>1 教科で、年次指導計画の作成、教材研究、教科指導法、施設・備品の拡充・活用等について検討し、専門的教養を深めるための研修会を継続的に実施する。</p> <p>2 教科研究会、講習会、および他校の研究授業等には、可能な限り参加し、参加者には帰校後その伝達・報告を行い、共同研究の資とする。</p> <p>3 成績会議を毎学期末に開き、教科指導の反省ならびに指導法を検討する。</p>	<p><研究授業等の実施> 大阪府教育センターの指導主事を招き、英語と数学で研究授業を実施した。また、初任者2名についても、校内研修の一環として研究授業を行った。 保護者向けの授業公開は3日、地域の中学校教員等にも案内しているスピーチコンテスト・課題研究発表会等を実施した。</p> <p><研究授業等の参加> SSH研究指定校の研究授業等に参加し、本校の理数教育の参考とするなど、各教科で他校の授業見学や、教科研究会に参加した。</p> <p><成績会議> 年3回全体での成績会議を実施し、生徒の状況について共通理解を図った。それに先立ち、各教科・各学年による会議により、情報交換を行い、個別の指導が必要な生徒等を確認した。</p>	<p>○授業アンケート方法の検討及び実施 学校協議会の提言をふまえ、学校教育自己診断委員会で授業アンケートの実施方法を検討する。</p> <p>○研究授業の実施数増加（6回） 教育センターから指導主事を招くなどして、研究授業を引き続き実施。</p> <p>○生徒の進路実現のため、進路指導体制の充実 授業展開を工夫して進路に関する意識を早期に高め、より意欲的に学習に取り組ませる。</p> <p>○新カリキュラム委員会、教育課程委員会、教科会などの場で、新しい学習指導要領を意識した本校教育のあり方について、検討を重ねていく。</p>
(2) 生徒指導等	<p>1. 問題を抱える生徒の個別の指導計画 (1) 家庭・関係機関との連絡を密にし、保護者等と学校との協力体制を確立する。 (2) 生徒の実態を把握し、状況に応じた平素の指導のあり方を検討、実施する。 (3) 生徒の問題行動を早期に発見するとともに、カウンセリング等の対応を行う。</p> <p>2. 集団としての指導計画 (1) 生徒が規律ある生活を過ごすよう、規範意識の定着等、指導に努める。 (2) 問題行動を未然に防止するための事前指導を行う。 (3) 指導上の問題点および諸規則の内容等検討を行う。</p> <p>3. 交通安全教育・薬物乱用防止教育を行う。</p>	<p><個別の指導について> 年3回の成績会議を通じ、各学年で個別の指導が必要な生徒について情報を共有した。特に課題のある生徒に対しては、養護教諭・教育相談係等が校医やスーパーバイザーと連携して対応した。また、生徒健康委員会を開き、指導のあり方について検討を行った。また、当該生徒や保護者に本校の指導について説明し、理解を深めた。</p> <p><集団指導について> 頭髪・服装・遅刻指導を教員全員で行った。現在、頭髪・服装には特に大きな乱れはない。遅刻の多い生徒に対しては、学年を中心にねばり強く指導を行った。問題行動のあった生徒については、個別指導の結果、十分な反省が引き出せた。</p> <p><交通安全・薬物乱用防止教育> 1、2学期にそれぞれ3日間登校指導を行い、交通マナーの指導を行った。自転車通学については、徒歩通学に比べて事故が多いことから、指導に力を入れた。 薬物乱用防止教室は、1、2年生対象に3月15日に実施した。</p>	<p>○個別の指導計画の立案・実施 指導に配慮が必要な生徒について、個別に必要なサポート体制を確立し、指導を計画的に実施する。</p> <p>○耐震工事に伴う安全指導 防災や安全に関する教育として、災害避難訓練を毎年実施しているが、22年度は校舎の全面的な耐震工事を予定しているのので、工事期間中の生徒の安全対策に万全を期したい。また、生徒の防災・安全に対する意識を高めたい。</p> <p>○薬物乱用防止教室については引き続き実施する。また、自転車による事故の恐さを啓発するため、交通安全講習会を実施する。</p>
(3) 学校運営等	<p>1 経営組織の確立 学校経営が円滑に実施されるよう、中長期的な課題を検討する泉北高校課題検討委員会の活用等、組織体制の確立を図る。</p> <p>2 個人情報の保護 生徒の個人情報が適切に管理できるよう、校内イントラでの成績処理等の運用システム確立と、教職員の個人情報保護に対する意識の高揚を図る。</p> <p>3 施設・設備の管理、環境整備と清掃美化の推進、防災対策、教員の健康管理 学校が安全かつ清潔に過ごせる場であるよう、安全点検や日常の清掃活動、防災機器の点検、職員健康相談の実施などを行う。</p> <p>4 教職員の研修 職員人権研修等を計画的に行う。</p>	<p><経営組織の確立> 校長・教頭・首席の連絡会を2週間に1度程度開き、学校運営の円滑化を図った。 科長・学年主任会議を定期的に行い、学習指導や特別活動が細かなところまでスムーズに進むよう、調整を図った。 泉北高校課題検討委員会を5回開き、学校教育自己診断を毎年実施するなど、中期的な課題について検討した。</p> <p><個人情報の保護> 情報管理の徹底について職員に指導を行った。</p> <p><施設・設備の管理等> 安全衛生委員会の構成メンバーについて内規改定を行った。日常の清掃指導はしっかりと行っているため、校舎内は清潔な状態である。 新型インフルエンザ対策として、消毒液（10月のピーク時には12箇所）を設置。</p> <p><教職員の研修> 4月に新転任者オリエンテーションを実施。職員人権研修を年2回実施。研究授業については上述</p>	<p>○運営委員会の役割 従来の職員会議の議案調整に加え、22年度からは、教室配置等を決める「施設・設備対策委員会」、学校行事の日程を決める「調整委員会」の役割も行う。これによりこれら2つの委員会は21年度末に廃止する。</p> <p>○保護者への連絡体制の充実 21年度は保護者緊急連絡メーリングリストを作り、インフルエンザによる学級休業等を直ちに知らせる対策を取った。22年度はその他の情報についても、こまめに保護者に知らせる対応を取っていきたい。</p> <p>○教職員研修 経験の浅い教職員に対し、生徒の指導に資するため、研修を実施する。</p>
加 追			

4 学校教育自己診断における結果と分析

[平成21年11～12月 実施分]

*実施対象（**教職員**・**生徒**・**保護者**・その他）

教職員・・・「毎日充実して仕事をしている」（88.5%）で、昨年度より約10%肯定的回答の比率が上がった。教員のやる気が学校の活性化につながると考えられる。

生徒・・・「学校へ行くのが楽しい」（77.1%）、「授業の内容を理解しようと努力している」（77.3%）、「生徒は部活動に積極的に取り組んでいる」（84.8%）と、学校が好きで、部活も勉強もがんばりたいと思っている生徒が多いことがわかる。反面、「学校へ行くのがしんどい」（51.0%）との回答があり、「しんどい」の内容を聞くための質問が必要である。22年度実施の自己診断では質問項目を工夫したい。

保護者・・・「学校の雰囲気がよく、生徒が生き生きとしている」（88.2%）、「他の学校にない独自の教育活動に取り組んでいる」（86.1%）と、学校に良いイメージを持っていることがわかる。反面、「生徒がやる気を起こすように授業に工夫をこらしている先生が多い」については31.2%と低い。授業参観への保護者出席は少ないため、生徒の意見を通じての回答と思われる。教員側は、「生徒の実態や要求をふまえ、指導方法の工夫・改善を行っている」が92.3%で、保護者の認識と大きなずれがある。保護者との連携をさらに図る必要がある。

5 学校協議会における提言内容

- *実施日 第1回（9/30）第2回（2/12）
- *委員構成 学識経験者、近隣小学校長、近隣中学校長、PTA代表、後援会代表、同窓会代表、府立高校校長経験者、臨床心理士資格保持者
- *内 容
- SSH事業指定期間が終了しても、継続可能な事業はぜひ続けてほしい。
 - 専門学科のイメージが浸透するような広報活動をしてほしい。
 - 大学進学状況については改善の余地があるのではないかと。
 - 学校教育自己診断の質問項目に工夫を重ねる。
 - 授業アンケートの方法を検討し、実施へ。
 - 保護者への連絡体制をさらに充実させる。